

会議要旨

会 議 名	甲州市行政改革推進委員会（第3回）
議 題	1. 平成19年度行政改革実施項目に対する意見とその対応について 2. 答申内容の検討について
開会日時	平成20年11月5日（水）午後1時30分～4時
開会場所	甲州市役所本庁舎 第1会議室
出席者名	◎中村委員、○塩野委員、雨宮委員、井上委員、寺沢委員、平野委員、蒔田委員、三森委員、矢崎委員 事務局 手塚課長、藤枝課長補佐、中村副主幹、小林主査
議 事	
<p>○会長 会議資料は概ね会議の1週間前に委員に配布することになっている。次回はそのようにお願いしたい。</p> <p>【1. 平成19年度行政改革実施項目に対する意見とその対応について】</p> <p>○事務局: (ぶどうの丘施設に関する地方債の状況とぶどうの丘会計から一般会計への繰出金の推移について説明)</p> <p>○会長 事前に配布された資料「平成19年度行政改革実施項目に対する意見とその対応について」の内容について、質問、意見を出してほしい。</p> <p>○委員 P3 の対応欄に「全職員を対象とした研修会を実施した」とあるが、なぜ報告書の実施事項の欄で「実施した」という表現ができなかったのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P5 住民基本台帳カードの発行について、20年度は1,000枚を目標としているが、20年度で終了したのか。以前の資料では理解しにくい部分があった。20年度で終了するのでなければ21年度、22年度の目標値を設定すべきである。 ・P20 「平成23年4月から納税報奨金は廃止を検討」とあるが、全期前納制度を行うことにより、収納率の向上につながるのではないかと感じた。 ・P2 ぶどう郷マラソンを「10月第4日曜日に繰り上げ」とあるが、もともと10月の第3日曜日に実施していたものであり、基本的にはぶどうがある時期に開催することが望ましいと思う。 ・P3 市として県より先に行動計画を策定する姿勢が欲しかったという意見を出したが、それに対する回答がなく残念である。 ・P3 入札結果の公表については、指名選考委員会での検討と広報紙のページ容量、紙面構成の問題があるとのことだが、どちらが優先されるのか。広報紙のページ容量が足りなくとも、小さな文字でよいので広報紙上に載せることを望む。毎月の広報紙を見ると単なるお知らせ記事のボリュームが大きく、それらの内容をチェックし簡素化すればスペースの確保は容易であると感じている。 ・P45 権限委譲により発生した必要経費を「調査する」とあるが、未調査であるのであれば19年度の効果額も正しくないのではないかと。 ・P74 勝沼CATV組合の修繕費の負担について、「協定書の中で100万円以上は双方で協議する」とあるが、以前協定書を見たことがあるが、そういった表現はなかったと思う。記憶違いかも知れないが正確なところを知りたい。 	

- P86 行政区の再編について、「市としても区長会や地域懇談会の場で再編に向けて検討することをお願いしています」とある。市民懇談会の席でそのような話を聞いたことはないが、実際の状況を知りたい。
- P90 広報紙を活用した情報提供については、ぜひよろしくお願ひしたい。さらに付け加えて、広報紙上のお知らせ記事の内容を検討し簡略化して欲しい。また、各課ごとに書き方に違いがあるので、統一して欲しい。
- P124 住宅建設、企業誘致の件に対する回答が農林商工課からされている。人口増への取り組みが求められるが、住宅誘致に対する回答がないのが残念である。
- P135 職員の定員、給与の状況の公表は、総務省の様式で行うことしながら、一方で簡素化を検討しているとのことである。総務省の様式を必ず使わなければならないのか、簡素化が可能なのかどちらが正しいのか。市民の関心が高い部分であり、公表を望む。
- P137 職員研修所の研修について、対象者に対する参加者の割合が知りたかったが、これに対する回答がない。
- P140 昇任制度のあり方について、行政改革推進委員会の1年目に話を聞いた際に「難しいのでは」という話をしたところ、当時の総務企画部長が「やります」とのことであった。しかし19年度の結果とスケジュールを見ると当初と変更されており残念である。行政改革は、きれいな事を並べて後で変更するのでは何もならないと思う。
- 事務局 P3 の研修の実施については、他の項目と重なる部分であったので省略させていただいた。
- P5 証明処理については、電話による申し込みと郵送による申し込みがあり、それぞれを分けた統計データがなかった。今後は分かるようにしていきたい。
- P6 住民基本台帳カードの発行については、20年度、21年度についても数値目標を示していきたい。
- P20 前納報奨金については、外部の意見も参考にしなければならぬため、担当課に伝え検討を促したい。
- P23 秋はイベントが多いため、イベントの開催日程の件については、担当課や行革本部会議に伝え検討していきたい。
- P36 公共工事コストの削減に向けた行動計画について、県では平成16年度に策定し、すでに運用を行ってきたものであり、これを準用することとした。
- P37 入札結果については、広報紙上での公表を前提に検討していきたい。
- P45 県からの事務移譲に伴う経費についての調査は未実施であるが、今後、事務事業評価を行う中で整理していきたい。
- P84 区の再編については、全ての市民懇談会の席でお願いしているわけではなく、関連する意見が出た際をお願いしている状況である。
- P90 広報紙の表記については、統一した形で行っていくこととしたい。
- P124 企業誘致については農林商工課が担当であるため回答したが、住宅施策も重要であり、政策秘書課も含めて総合的に検討していきたい。
- P137 職員の定員、給与の状況の公表するための総務省の様式は大量であり、出来るだけ簡素化し市民に分かりやすい形で公表するよう検討していきたい。

- P137 職員研修所の研修への参加率については、再度担当課に確認する。
- P140 昇任制度については、平成 21 年度からの人事評価制度と合わせて実施していくこととしている。
- 委員 総体的に Q&A はしっかりとお願いしたい。
- 委員 気が付いた点を述べたい。
- P3 窓口サービスの充実は、よくやっていると感じる。スピード感を持った対応が大切であり、そのことを職員が意識して取り組んで欲しい。
- P6 計画の最終目標を明示することが必要だと思う。
- P20 納税奨励金の廃止に際しては、メリット・デメリットをよく検討するべきである。報奨金により市民の納税意識が高まり、一括の納税による事務負担の軽減等も考えられることから、全廃はどうかと思う。
- P41 組織機構の見直しについて、「市民から見て分かりやすい組織づくり」とあるが、組織機構は、効率的、効果的であることが重要で、その上で市民の理解を得ることが大切である。
- P91 広報活動の充実については、良くやっているとと思う。継続が大切であり、広報担当者だけでなく、職員一人ひとりが市の広報マンであるという意識を持って欲しい。
- P124 企業誘致、住宅建設は、人口減少への対策が根本の問題である。人口が減少している地域で発展している地域はない。定住人口の増加に向け、教育や環境、歴史・文化などの施策の強化が必要となる。あるセミナーで、県の活性化のために都内の有名大学の施設や学科を誘致することも必要であるという話を聞いた。市内には農業振興地域が多いということだが、産業界では今、農業に注目が集まり始めている。農商工の連携による幅広い観点から企業誘致を検討していくことが必要である。北杜市では市長が先頭に立って県外でも営業活動を行っている。そうした取り組みが地域の活性化に津がなっていくものと思う。
- P137 職員は研修会に参加するだけでなく、そこで得た成果をどう生かすかが大切である。
- 事務局 企業的感觉の中で指摘していただきありがたい。今後の取り組みの中で生かしていきたい。
- 委員 広報紙で地球温暖化に関連したバイオマスについて取り上げられていた。産官学の連携による取り組みとして、まさに旬のテーマである。山梨市や笛吹市ではバイオマスタウン構想を策定し、全国に向けて主張している。甲州市としての具体的な取り組みの状況を知りたい。最近、民間企業には社会的責務としてエコ活動が求められており、そうした企業を誘致するなど特色のある企業誘致を進めることにより外に向けたアピールにも繋がると思う。
- 事務局 市として、バイオマスに関する具体的な取り組みはまだない。環境課が主体となり甲州市の環境基本計画を策定し、まずは廃油(食用油)の回収を始めたところである。市内で発生する剪定枝などを活用した取り組みを甲州市だけでなく広域的な視点で検討することも考えたい。市ではまちづくりを進める上で「歩く」をキーワードに取り組みを検討している。「歩く」ことを通じて、観光振興ばかりでなく、環境問題、交通安全、教育などにつな

げていきたいと思う。

- 委員 エコをベースにした取り組みによる可能性は無限に広がると思う。甲州市を訪れる人に訴えることが出来るものと思う。
- 事務局 先ほど人口増加策についての話があったが、甲州市を選択して住みたいといってくれる方も増えている。首都圏から1時間半の立地で、首都圏とは違った空間があることに魅力を感じているようだ。そうした人たちに対して環境面も訴えていきたいと思う。
- 委員 スピード感を大切にすべきとの意見は賛成である。それに加えて先見性も必要であると思う。若年層の定住化は少子化の解消に繋がるものであり、石川県と東京都で先進的に行われている「マイ保育所プラン」の導入を提案したい。(子どもがいなくても保育所の入所を予約できる制度で、生活プランが立てやすくなる。また、保育士や看護師等の専門職員からの情報提供により安心した子育てが可能となる)経費も掛からず先進的な少子化対策として外に向けたPRができるものと思う。
- 事務局 保育所を取り巻く最近の大きな傾向として、官から民へという流れがあるが、今の提案はそれとは質を異にしているものであり、検討していきたい。
- 委員 広報紙の印刷前の最終チェックは誰が行うのか。表面的なチェックでなく文章の一字一句まで確認をして欲しい。今月号の中でも同一文章のなかで違った表現が見られた。また、以前から指摘していたことだが、市民の視点に立った編集を心がけて欲しい。先月号でもインフルエンザの予防接種に対する助成の記事が子どもと高齢者が別のページに掲載されていた。
- 委員 ぶどうの丘の公債費について説明があったが、一般会計分の元利償還金のうち交付税措置されたものの額を知りたい。
- 事務局 後ほど調べてお知らせしたい。
- 会長 今日出された意見は、行政改革本部会議に伝えていただき、今後の行政改革の取り組みに生かしていただくことでよろしいか。
- 委員 (異議なし)

【2. 答申内容の検討について】

- 事務局 (資料に基づく説明)今日の会議で出された意見(スピード感、人口増加策、先見性など)についても整理して書き加えたい。
- 委員 答申の時期はいつを考えているか。
- 事務局 当初、今年度中に4回の会議を計画し、4回目を1月に行うこととしていたが、19年度の取り組み内容についての答申であり、20年度の改革に生かしていくためにも11月末から12月上旬に答申したいと考えている。
- 委員 答申書案については、非常に配慮していただき、良く出来た内容である。他の委員からすれば細かすぎる印象を持つかもしれない。希望として裏面の指摘事項の8について、市長への手紙は「市長自ら開封し」として欲しい。そのことが差出人の心をくみ取ることに繋がると思う。また、指摘事項9の「CATV 広報」を削除し、ホームページを利用しない人は多いという認識した表現としてほしい。
- 委員 広報10月号に掲載された市長の市政報告の中の行革による効果額と、推進委員会の資料の額が違っていたがどちらが正しいのか。

- 事務局 効果額については、議会前にまとめた金額とその後精査してまとめた額に違いが出てしまった。お詫びしたい。推進委員会に提示した額が正しいものである。
- ・ 市長への手紙を市長自ら開封することについては、検討させて欲しい。ただし答申書に盛り込むことについては委員の皆さんで協議していただきたい。CATVの表記については削除したい。ホームページの利用状況についてはいずれ何らかの手段で調査していきたい。答申書への表記については協議していただきたい。
- 会長 答申書の指摘事項8の標記は、取り方によっては全て公表するものと受け取られかねない。「必要に応じて」という表現を加えたらいかがか。
- 委員 指摘事項9について、市民が最も見るのは広報紙であり、それを主とした書き方に変えたらどうか。指摘事項8については誤解を与えないよう「必要に応じて」としたらよい。
- 事務局 指摘事項8について、市長への手紙は大きくは「市民提案制度」の意味合いを持っているが、中には苦情などで公表できないものもある。市民から寄せられた建設的な意見については公表していきたいという趣旨のものであり、もう一度表現を整理させていただきたい。指摘事項9については、市民に対する情報提供の基本は広報紙であり、これについても表現を整理させていただく。
- 会長 次回の委員会では、市長に対して答申を行い、市長から話を聞く機会をつくりたいと思う。答申書の文言について、今日の意見を踏まえた上で正副委員長にお任せ願いたい方がよろしいか。
- 委員（異議なし）
- 事務局 今日の意見を考慮し、再度答申案を作成した時点で正副委員長と協議し、次回委員会の開催前に委員の皆さんにも送付する。それに対するご意見をいただき、調整のうえ確定したものを次回委員会に出させていただきます。
- 会長 ただいまの通りよろしくお願ひしたい。次回の委員会は、11月28日の午後1:30からとする。その他何かあるか。
- 事務局 閉会前に一言お礼を申し上げたい。今日の委員会では、前回の委員会でも出した19年度の取り組み状況に対する指摘事項への対応を示したが、貴重なご意見、ご指摘を多数頂いた。行政運営上、非常に意義のあるものでうれしく思う。我々もこうしたご意見を受け止める中で今後の行政運営に取り組んでいきたい。中には政策的な提言も頂き、非常に重く受け止めた。人口が減少する少子化社会の中で、この地域の活性化のために定住人口、交流人口の増加に向けた企業誘致のあり方など考えさせられる話も多く、感謝申し上げたい。
- ・ ○副会長:(閉会あいさつ)

決定事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の会議は11月28日(金)午後1時30分からとする。 ・ 次回の会議において市長に答申を行う
-------	---